

令和 2 年 6 月 3 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2019

課題番号：15H03181

研究課題名(和文)再興・布教から霊場化へ 増峠関連の寺院経蔵調査を中心に

研究課題名(英文) Temple revival for propagation-survey of Zouun's connexion -

研究代表者

中山 一磨 (Kazumaro, Nakayama)

大阪大学・文学研究科・招へい研究員

研究者番号：10420415

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、関連する複数の寺院を対象にした経蔵調査を行うことで、経蔵の形成過程や蔵書の傾向などを相対的に捉える事を目的とした。

1年目・2年目は岡山県真庭市の木山寺での所蔵古典籍調査を中心に行った。その成果は寺内での宝物展示とリレー講座の開催、及び『神と仏に祈る山 美作の古刹 木山寺社史料のひらく世界』(中山一磨編、2016年、法蔵館)に代表される。3・4年目は香川県三豊市の覚城院を中心とした蔵書調査を行った。なお、本研究は5年目より基盤研究(A)(一般)「地方基幹寺院に於ける文献資料調査と経蔵ネットワークの研究」へと引き継がれることになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は寺院調査を単なる典籍調査ではなく、経蔵単位での比較検討をする研究への発展を計ることを目的としている。その為に複数の寺院を同時並行的に調査を行い、それぞれの経蔵の特徴を捉える為の悉皆調査を基本とした。これは寺院調査が個別の重要史料の博搜に重点が置かれてきたこれまでの研究から、蔵書全体を研究対象とする研究に力点を移したという点で、新たな研究領域の創出へと繋げるものである。また、その成果は展示会や出版などにより即時的に現代に生かすと共に、目録データや画像の蓄積により、未来にも受け継がれる歴史遺産となる。

研究成果の概要(英文)：The objective of this study is to relatively catch formative process in Kyo-Zo(Temple's Warehouse) and inclination of the collection of books by investigating at more than one temple.

In the 1st and the 2nd year, we investigated the old classical books in the Kiyama temple in the Okayama-ken Maniwa city mainly. As main result, we exhibited and lectured on Kiyama's cultural properties for the public, also we published a book titled 'Kamito Hotokeni Inoruyama'.(Nakayama, Kazumaro(ed.). 2016. Kyoto:Hozokan Press.) In the 3th and the 4th year, we investigated the old classical books in the Kakujuuin temple in the Kagawa-ken Mitoyo city.

Further, this research was taken over after the 5th year to Grant-in-Aid for Scientific Research(A) "Research of Japanese Classical Books and Temple's Network"(KAKENHI Grant Number JP19H00529).

研究分野：中世文学

キーワード：寺院文献調査 木山寺 覚城院 安住院 増峠 蓮体 神仏習合

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

寺院に残る歴史遺産が大量かつ多様な研究資源であることは論を俟たない。しかしそれらが十分に研究資料として活かされていないこともまた事実である。

本研究は、これまで多くの寺院で所蔵文献の調査を行ってきた。その特徴は、既に開かれた大寺院の調査ではなく、ほとんど調査されていない地域に密着した寺院を主たる対象としていること、および基本的には所蔵文献の悉皆調査を行うことで、ひとつひとつの寺院との信頼関係を築いてきた。これにより、収蔵物の全てを対象に研究利用する許可を多数の寺院から得ている。

近年、単独の寺院経蔵についての詳細な報告が増えてきているが、寺院を横断した研究は希薄である。本研究は、類似希な研究フィールドを活用し、経蔵間を相対化する研究が可能な状況にある。

2. 研究の目的

1. 関連する複数の寺院を対象にした経蔵調査を行うことで、経蔵の形成過程や蔵書の傾向などを相対的に捉える事を目的とする。これにより、寺院調査を単なる典籍調査ではなく、経蔵単位での比較検討をする研究へと発展させる。(.経蔵間の位相に関する研究)
2. 研究目的、蔵書の貴重性、及び保存状態改善の緊急性を考慮し、覚城院を基軸とした蔵書調査を行う。と同時に同地域(岡山・香川)の安住院・備中国分寺・木山寺での調査を継続する。
3. 如上加え、分担者・連携者が現在調査している寺院から、覚城院と関連の深い寺院での調査研究との融合を図る。その際にキーワードとなるのが「再興」・「布教」・「霊場」であり、「増件」及び「蓮體」などを対象とした事績の追究を行う。複数の寺院調査の成果を有機的に結合する事でより多角的な分析を目指す。その他付随するテーマとして「神仏習合」・「寺社縁起」・「報恩大師信仰」などを想定している。(.地域における伝承や寺伝の形成に関する研究)

3. 研究の方法

- 一カ寺でも大変な寺院調査を複数寺院で行うには工夫が必要である。全ての寺院で同列の調査を行う事は非現実的であり、寺院毎に調査密度に濃淡を設定することで目的の達成を目指す。
- 分担・連携研究者以外にも、本研究に関心を示す研究者には積極的に参加を促す。また、研究者以外でも出来る事(PC 作業・撮影・虫干し等)は一般の方々も動員し、作業効率を図る。但し、寺院調査に適さないと判断する方々にはご遠慮頂き、トラブルの発生を未然に防ぐ。
- 調査現場は常に各分担・連携研究者が主導する寺院調査との情報交換の場となる。一方で定期的に研究会・企画会議を開く事で、研究の進展状況を確認しながら進めて行く。

4. 研究成果

本研究の主たる成果は、期間前半(年度)の木山寺での活動と、後半(年度)の覚城院での活動に分けられる。

(1) 先ず木山寺に関しては、平成 27 年 11 月に木山寺で資料展示及び、講演会を開催した。展示資料は木山寺・木山神社所蔵の彫像・棟札・絵画・典籍・版木、計 120 点余り。その大半が調査で発見された資料群であり、初公開である。同時に木山寺客殿にて、関連講座を開催した。これらは本研究での学術資料調査が起点となり、所蔵者である寺社、及びその関係住民、更に地元教育委員会や博物館の協力を得て行った。学術面のみならず、学術資料調査が果たす地域貢献として大きな成功例と成り得た。

平成 28 年 10 月には、『神と仏に祈る山 美作の古刹 木山寺社史料のひらく世界』(中山一磨編・法蔵館)を出版した。これは 27 年度の展示・講演会から更に最新の調査・研究を成果としてまとめたもので、図版 122 点とその解説・関連論文 8 稿とコラム 7 稿・史料翻刻と解説 6 稿から成る。木山寺所蔵の重要文献(戦国大名文書・経典・兵法書・神仏習合と分離関係記録)などを取り上げた論、棟札に基づく木山の歴史、美作備前備中の諸寺院及び高野山との関係、木山寺経蔵の形成に関する論、在地神善覚稲荷に関する稿などから、これまで知られていなかった木山を巡る諸問題を掘り下げた。

以降も調査を続け、現状の進捗状況は全典籍の分類と配置換えが終わり、奥書識語を含む悉皆目録の作成に入っている。

(2) 覚城院に関しては、平成 28 年度後半から本格的な全体調査を開始した。覚城院には本堂・客殿・蔵と 3 箇所にて典籍類が分置されているが、先ずは本堂分を中心に調査を行った。また、蔵

の大掃除を行い、蔵書のサンプル調査も行った。これらの活動を通して、増峠関係資料の発見、尾州真福寺との繋がり判明、信源なる僧による南北朝期から室町初期の写本群の存在を確認、などの新知見を得た。その一部は、以下の紙面や学会報告において公表している。

平成 29 年 6 月には、中山一麿「寺院経蔵調査にみる増峠研究の可能性 - 安住院・覚城院」(大橋直義編『根来寺と延慶本『平家物語』』、勉誠出版)において、新出の増峠関係史料を中心に、増峠やその周辺の研究を進展させると共に、聖教調査研究が新たな発展段階にあることを示唆した。9 月には本科研を含めた 6 つのプロジェクトの共催で、「第 1 回 日本宗教文献調査学 合同研究集会」が行われたが、中山はその開催に主導的役割を果たし、二日目の公開シンポジウム「聖教が繋ぐ - 中世根来寺の宗教文化圏 - 」では基調報告として「覚城院所蔵の中世期写本と根来寺・真福寺」を発表し、覚城院から発見された根来寺教学を俯瞰する血脈の紹介を交えつつ、覚城院聖教が根来寺・真福寺などの聖教と密接に関係することを報告した。加えて、同時に開催された寺院調査に関するポスターセッションでは、全 29 ヶ寺中、本科研事業に参加する研究者 5 名で計 10 ヶ寺分(覚城院・安住院・随心院・西福寺 以上中山・木山寺・捧沢寺 以上向村九音・善通寺 落合博志・地蔵寺 山崎淳・薬王寺 須藤茂樹・宝泉寺 中川真弓)のポスターを掲示した。3 月には「第 1 回 覚城院聖教調査進捗報告会 今日覚める、地方経蔵の底力」を開催し、覚城院調査メンバーから 9 名の研究者による最新の研究成果を公表した。同月末刊行の『中世禅籍叢刊 第 12 巻 稀観禅籍集 続』(臨川書店)においては、覚城院蔵『密宗超過仏祖決』の影印・翻刻・解題を掲載し、翻刻(阿部泰郎)・特論(中山一麿)・解題(伊藤聡・阿部泰郎)がそれぞれ担当して、本書の持つ中世禅密思想上の意義やその伝来が象徴する覚城院聖教の重要性を論じた。

調査の進捗状況は、本堂分 29 函の棒目録化の整理が終わり、詳細調書も 12 函分ほど進んでいる。更に客殿の版本調査も平行して行っており、5 函分程度進んでいる。加えて、蔵の整理も開始すると共に、日本史学研究者による文書調査、東洋美術史研究者による絵画調査も開始している。

(3) その他の寺院での活動状況を簡単に記しておく。

西福寺(京都府)では、神道書に関する調書と撮影をほぼ終え、それ以外の仏書調査を開始している。高幡不動尊金剛寺(東京都)でも、神道書の調査は終え、既存の蔵書目録の補訂作業を開始している。地蔵寺(大阪府)では、蓮体自筆本を多く含む写本群の存在が明らかとなった。今後の調査に向けて、まずは状態の改善を図るべく、蔵出し・塵払い作業を行っている。安住院(岡山県)では、版本の整理を行った。備中国分寺(岡山県)では、院生を含む若手研究者に寺院聖教調査の実践の場を提供することを主眼とした調査を開始している。

(4) 如上の各寺院での調査データが充実するに従い、多寺院間の資料比較が重要となりつつある。自ずと研究の中心課題も個別から横断へと変化してきている。一方で、研究に必要な画像の撮影と開披不能な重要典籍の修復など、研究遂行に不可欠な要素も増している。

このような現状に鑑み、本研究は研究計画最終年度前年度応募を行うこととし、平成 31 年度からは基盤研究(A)(一般)「地方基幹寺院に於ける文献資料調査と経蔵ネットワークの研究」(19H00529)へと移行した。従って、本報告書は概ね平成 30 年度までの実績であり、平成 31 年度分の実績は上記科研の報告書に依られたし。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計17件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 ITO Satoshi	4. 巻 -
2. 論文標題 Land and People Drifting Ashore: Distorted Conceptions of Japans Place in the World According to Medieval and Early Modern Japanese Myths	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Fabio rambelli(ed.)The Sea and the Sacred in Japan: Aspects of Marritime Religion	6. 最初と最後の頁 131-138
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ITO Satoshi	4. 巻 42(1&2)
2. 論文標題 Shinto in the Muromachi Period	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Japanese Religions	6. 最初と最後の頁 9-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中山一磨	4. 巻 63
2. 論文標題 木山寺所蔵の「多羅山一乗院縁起」について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 詞林	6. 最初と最後の頁 27-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 落合博志	4. 巻 -
2. 論文標題 国立歴史民俗博物館蔵高松宮本『六家抄 下』および紙背文書について	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 早歌の継承と伝流 明空から坂阿・宗砌へ	6. 最初と最後の頁 101～126
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 落合博志	4. 巻 -
2. 論文標題 『毘沙門堂本古今集注』の書誌的考察	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 中世古今和歌集注釈の世界 毘沙門堂本古今集注をひもとく	6. 最初と最後の頁 33～52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤聡	4. 巻 816
2. 論文標題 中世神道・中世日本紀研究の現状	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 5～18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤聡	4. 巻 特別号
2. 論文標題 東泉院本『太祝詞』について 影印・翻刻と解題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 六所家総合調査だより	6. 最初と最後の頁 18～28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤聡	4. 巻 -
2. 論文標題 鎌倉時代における僧徒の参宮と仏教忌避	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本文学の展望を拓く 宗教文芸の言説と環境 (笠間書院)	6. 最初と最後の頁 242～258
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中山一磨	4. 巻 41
2. 論文標題 西福寺の歴史	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 佛教文學	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤聡	4. 巻 41
2. 論文標題 西福寺の神道灌頂	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 佛教文學	6. 最初と最後の頁 19-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤聡	4. 巻 77
2. 論文標題 両部神道の歴史	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 智山ジャーナル	6. 最初と最後の頁 6-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤聡	4. 巻 2016
2. 論文標題 三輪流神道と天照大神	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 大美和	6. 最初と最後の頁 12-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤聡	4. 巻 14
2. 論文標題 中世神道と能	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 能と狂言	6. 最初と最後の頁 3-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤聡	4. 巻 1
2. 論文標題 夢告と観想 鎌倉時代における僧たちの伊勢参宮	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 ジョン・ブリー編『変容する聖地 伊勢』	6. 最初と最後の頁 92-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤聡	4. 巻 2017年2月臨時増刊号
2. 論文標題 吉田兼俱の「神道」論	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 現代思想 総特集：神道を考える	6. 最初と最後の頁 116-127
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤聡	4. 巻 1
2. 論文標題 神祇信仰史のなかの八幡	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 鹿児島県歴史資料センター黎明館編『八幡の遺宝 南九州の八幡信仰』	6. 最初と最後の頁 80-87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤聡	4. 巻 64-7
2. 論文標題 中世における神道説の類聚	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 日本文学	6. 最初と最後の頁 pp57-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計18件 (うち招待講演 5件 / うち国際学会 4件)

1. 発表者名 落合博志
2. 発表標題 日本の仏書の書誌学 UCB東アジア図書館賀蔣 (Ho-Chiang) コレクション本を用いて
3. 学会等名 日本古典籍セミナーUCB2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 向村九音
2. 発表標題 香積山恵光寺慧濬の行状について 浄厳・蓮體関連聖教の讃岐伝来の一経路として
3. 学会等名 第2回 覚城院聖教調査進捗報告会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 柏原康人
2. 発表標題 『當山聖教目録』瞥見
3. 学会等名 第2回 覚城院聖教調査進捗報告会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 幾浦裕之
2. 発表標題 UCLA梅尾コレクションの研究 覚城院蔵版本、香川県立図書館蔵『梅尾蔵書目録』との関係から
3. 学会等名 第2回 覚城院聖教調査進捗報告会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊藤聡
2. 発表標題 宗任筆『事相聖教目録』について
3. 学会等名 第2回 覚城院聖教調査進捗報告会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋悠介
2. 発表標題 伝憲深撰『醍醐三宝院大事』をめぐる問題
3. 学会等名 第2回 覚城院聖教調査進捗報告会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中山一麿
2. 発表標題 総論
3. 学会等名 第1回 覚城院聖教調査進捗報告会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 落合博志
2. 発表標題 覚城院蔵『安居院憲基式口伝聞書』（仮題）について
3. 学会等名 第1回 覚城院聖教調査進捗報告会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊藤聡
2. 発表標題 覚城院蔵『当寺鎮守青龍権現習事』の紹介
3. 学会等名 第1回 覚城院聖教調査進捗報告会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中山一麿
2. 発表標題 覚城院所蔵の中世期写本と根来寺・真福寺
3. 学会等名 第1回 日本宗教文献調査学 合同研究集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 落合博志
2. 発表標題 元興寺願暁撰『内外万物縁起章』について 新出上巻の紹介
3. 学会等名 国際仏教学大学院大学日本古写経研究所平成29年度第2回公開研究会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 伊藤聡
2. 発表標題 神道灌頂における宗教的心身論 父母代灌頂を中心に (Religious Conceptions of the Body-Mind Complex in Shinto Consecrations Rituals (Shinto kanjo))
3. 学会等名 EJS2017 Conference in Lisbon (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 伊藤聡
2. 発表標題 中世神道と能
3. 学会等名 能楽学会 (招待講演)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 落合博志
2. 発表標題 日本古典籍の書誌概念と書誌用語の諸問題
3. 学会等名 第1回日本語の歴史的典籍国際研究集会「可能性としての日本古典籍」(国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 中山一麿
2. 発表標題 増叶年譜雑考 - 安住院・覚城院蔵書調査を通して -
3. 学会等名 第1回日本語の歴史的典籍国際研究集会「可能性としての日本古典籍」(国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 伊藤聡
2. 発表標題 神仏習合思想の変遷と木山寺・木山神社
3. 学会等名 「木山寺・木山神社の宝物とその歴史」展リレー講座「神と仏に祈る山 - 木山寺と木山神社 - 」(招待講演)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 落合博志
2. 発表標題 典籍史料の調査と魅力 - 善通寺調査から -
3. 学会等名 四国大学COC事業 第4回 四国大学地域活性化フォーラム(招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 中山一麿
2. 発表標題 寺院調査が地域にもたらすもの - 木山寺の事例を中心に -
3. 学会等名 四国大学COC事業 第4回 四国大学地域活性化フォーラム(招待講演)
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計9件

1. 著者名 伊藤聡(編)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 488(伊藤担当: 445-455、459-471、 480-485)
3. 書名 真福寺善本叢刊 第三期 神道篇 第2巻 麗気記	

1. 著者名 中世禅籍叢刊編集委員会編（伊藤聡）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 792（671～676、704～709、725～733）
3. 書名 中世禅籍叢刊 第12巻 稀覯禅籍集 続	

1. 著者名 中世禅籍叢刊編集委員会編（中山一麿）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 792（677～684）
3. 書名 中世禅籍叢刊 第12巻 稀覯禅籍集 続	

1. 著者名 大橋直義編（中山一麿）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 248（140～157）
3. 書名 根来寺と延慶本『平家物語』	

1. 著者名 中山一麿（編集），伊藤聡，落合博志，他研究協力者9名	4. 発行年 2016年
2. 出版社 法蔵館	5. 総ページ数 320
3. 書名 神と仏に祈る山 美作の古刹 木山寺社史料のひらく世界	

1. 著者名 伊藤聡	4. 発行年 2016年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 308
3. 書名 神道の形成と中世神話	

1. 著者名 伊藤聡	4. 発行年 2016年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 457-486, 631-637
3. 書名 中世禅籍叢刊『聖一派』	

1. 著者名 伊藤聡	4. 発行年 2017年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 487-501, 533-594, 633-638, 649-658
3. 書名 中世禅籍叢刊『聖一派 続』	

1. 著者名 サントリー美術館（編集） 落合博志（執筆）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 サントリー美術館	5. 総ページ数 248
3. 書名 絵巻マニア列伝	

〔産業財産権〕

〔その他〕

第2回 覚城院聖教調査進捗報告会 積もる経蔵、動く書物
<http://jarsa.jp/kakujo201811>
 第1回 覚城院聖教調査進捗報告会 今目覚める、地方経蔵の底力
<http://jarsa.jp/kakujo201803>
 第1回 日本宗教文献調査学 合同研究集会
<http://jarsa.jp/event/a03/pref13/7604/>
 開創1200年記念事業 「木山寺・木山神社の宝物とその歴史」展
<http://jarsa.jp/kiyama2015/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	落合 博志 (OCHIAI HIROSHI) (50224259)	国文学研究資料館・研究部・教授 (62608)	
研究分担者	伊藤 聡 (ITO SATOSHI) (90344829)	茨城大学・人文社会科学部・教授 (12101)	